20240225 猪高の森自然観察会　2024 年 2 月報告書

猪高の森自然観察だより　2 月号

開催日時：2024 年 2 月 25 日（日）
天候：雨、雨の為観察会は中止、来ていただいた方と散策の形で行いました。
気温：最低 5.1℃、最高 7.4℃（名古屋に於いて）
テーマ:　カエルの産卵とほころび始めた木の芽たち
参加者構成:一般 9 名(内 NACS-J 会員 3 名、未就学児1名)
コース ： 森の集会所 → シダレザクラの里→ こもれび池 →塚ノ杁池堤体 → 木道 → すり鉢池 → アーチェリー場 → 森の集会所

２月に入り、寒暖差は更に大きく、３月下旬から４月並みの最高気温になったかと思えば、一桁の気温になったりしています。(左上の画像はカワヅザクラ、当日ではない画像を含んでいます。)

〇ニホンアカガエルの産卵が始まっています。

始めの産卵は、先月半ばから末に行われたらしいです。シダレザクラの里、こもれび池、谷地田（棚田）、すり鉢池で現在の所確認されています。

2022 年 4 月 8 日
井堀の湿地にて成体

名古屋市の 2020 年レッドリストでは絶滅危惧 1A 類にランクアップされ、「5 年以内に 50%以上の確率で絶滅」とされています。

日本の在来両生類 71 種（2015 年 5 月現在）の内カエルは 38 種、71 種の内固有種は 66 種で、ニホンアカガエルも日本固有種になります。

愛知県としては、絶滅危惧種としては指定されていませんが、**名古屋市では絶滅危惧種に指定されています**。他府県では指定されているところは多数あり、静岡県では絶滅危惧種、岐阜県では準絶滅危惧種に指定されています。

浅い水辺を産卵場所としているので、水田の減少や乾田化、耕作放棄地の増加、コンクリートによる水路の整備などが、産卵とオタマジャクシ生育場所の減少に影響を与えているとされています。(他にも、ウシガエルやアライグマによる捕食や環境の悪化など、水界と陸界の両方の影響を受けています。)

1～３月に産卵を行い、その後、親は再び「春眠」を行い５月ごろ起きだしてきます。

問題１：なぜ、こんな寒い時期に産卵を行うのでしょう？メリット（利点）は？
（答えは最終ページにて）

○里山エリアにメグスリノキがありました。

今まで気が付かなかったのですが、植栽と思われる**メグスリノキ（ムクロジ科カエデ属）**が、ありました。

発端は、見慣れているカエデの種にそっくりで巨大なものがぶら下がっているのを見つけたことです。なんと長さが５ｃｍ近くもあったのです。

左の下の画像はよくみかけるイロハカエデの種子との比較です。上がメグスリノキ、下がイロハカエデです。

メグスリノキの名は漢字で書くと「目薬の木」で、目の病気に効能があるとされたことに由来します。樹皮を煎じて洗眼薬にしたそうです。

ウィキペディアによると

日本特産で、本州（宮城県・山形県以南）、四国、九州に分布する。宮城県南部が北限ともいわれている。山地に生え、主に標高 700 メートル（m）付近に多く見られる。ただし、個体数は少ない。

とのこと。カエデの仲間のこのタイプの種は「翼果」と呼ばれ、風に舞ってくるくると回りながら移動し、新天地を見つけます。植栽木とはいえ、雌雄異株の雌株で、珍しい三出複葉なので、大事にしつつ春が楽しみです。

○白いサギを見分けられるようになろう！

白いサギには、ダイサギ、チュウサギ、コサギの 3 種類があります。冬に猪高緑地に飛来するサギは主にダイサギとコサギです。

冬のダイサギは嘴が黄色。口角（こうかく。口の端のこと）が眼の後ろまでくる。夏には嘴は黒くなり、眼と嘴の間は婚姻色で青くなる。チュウサギは口角が眼の後ろまでこない。

ダイサギは足の先は１年中黒。コサギは１年中黄色で飛び立つ時や木に止まっている時などに良く目立つ。画像はダイサギ。

コサギは嘴が１年中黒。全体的に小型なのでその点も観察時に考えに入れると良い。
チュウサギは田んぼなどによく現れる。

〇春の訪れは木や草にも

カジイチゴ新芽

アオキ新芽

ユキヤナギ新芽

オオイヌノフグリの花

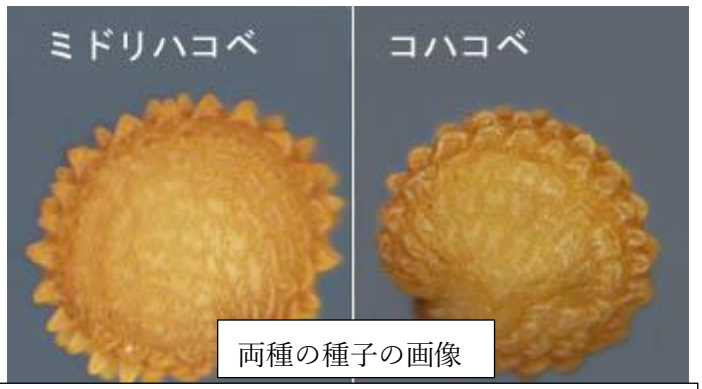
ナズナの花

セイヨウタンポポの花

これはミドリハコベ？

【ハコベの見分け方】

・雌しべの先が５つに分かれている　→　ウシハコベ
・雌しべの先が３つに分かれている　→　コハコベ
　又は　ミドリハコベ
・種子の周りのギザギザが鋭い　→　ミドリハコベ
・種子の周りのギザギザが丸い　→　コハコベ



両種の種子の画像

雌しべと種の画像は「三河の植物観察」より抜粋
https://mikawanoyasou.org/data/midorihakobe.htm

雌しべの先が３つに分かれる

「コハコベの茎は赤みを帯びる」「ミドリハコベは緑色」との記載されていることもあるが、それぞれ「赤みがなく緑色の個体」「若干赤みを帯びる個体」もあり、決め手にならない。

○「震動傾性」ってなに？

４文字熟語で話すと簡単なことも難しく聞こえるのはなぜでしょう。

生物学辞典によると

「**【震動傾性**（seismonasty）**】**：植物体を震動することが刺激となっておこる傾性運動。ごく軽い接触、液体や気体による局部的な圧迫、急激な温度変化なども刺激となる。この性質を持つ植物を**感覚植物**（sensitive plant）という。**傾震性**、**振動傾性**、**震動傾性運動**　とも。」

ヒイラギナンテンのひとつの花の拡大画像

チョット触ると植物が動くことを、言うみたいですね。水をかけたり、風を送ったりしても、ちょっと温めたりしてもよいようです。

代表的なのはオジギソウや食虫植物のハエジゴクで葉っぱが動きますね。今回はヒイラギナンテンの雄しべで試してみましょう。どんな動きをするでしょうか？

雄しべの根元を細い枝などで触ると、内側に曲がってきます。（時間が経つと元に戻ります。）

同じような動きは、アザミやマツバボタン、ヤグルマギクでも見られるとのことです。

問題 2、なぜ雄しべはこんな動きをするのでしょう？メリット（利点）は？

（答えは最終ページにて）

○カクレミノってこんないろんな形の葉があるんです

俗称「グーチョキパーの木」とも呼ばれるこの樹ですが、実際に葉の形の変化がどの位あるのか、歩きながら軽く調べてみました。

比較的小さい幼木の葉は切れ込みが深かったり、5 裂になっている葉があったりの傾向が強いようです。

この３枚は比較的大きくなった個体の葉です。切れ込みが浅くなり、全くない葉も出てきます。

初めて見る人は、幼木と成木は別の種類と思ってしまうのは、無理もないと思いました。

つる性のテイカカズラも地面に広がっている葉と木に登ったつるの先の葉は違いますし、ヒイラギも低い枝の葉と高い位置の枝の葉では形が違います。

草本でも、根生葉と上部の葉が異なることは良くあります。植物の世界では、そんなに珍しいことではないのかも知れません。

それにしても 137.5° の角度を守って、日光がまんべんなく当たるように、重ならないように出ているのには驚かされます。（このことについては 11 月号参照。）

問１の答え・・天敵などの捕食者や生まれてきたオタマジャクシの競争相手がまだ活動していない時期に行うことで、生存率を上げる為、と考えられます。

問２の答え・・蜜などを吸いに来たポリネーター（花粉送付者）達により多くの花粉を着け運んでもらう為とされています。

次回観察会は 3 月 24 日（日）

森の集会所集合　9：30～です。

名東自然倶楽部の HP では毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

http://sizen.ciao.jp/　**から是非ご覧になってください。**

（右上の自然観察グループをクリックしてください。）